

複合繊維など 新分野でも活躍 繊維業界の トップメーカー



まるい 圓井繊維機械株式会社

繊維業界から 医療、自動車業界へ拡大

圓井繊維機械は、昭和40年代に当時の圓井康三社長（現会長）が編み生地ニットパーツを縫い合わせるリンキングマシンを開発し特許を取得。一時期は毎月200台を製造し、繊維業界のトップメーカーとして君臨した。

その後、時代の流れに伴い繊維業界そのものが海外に移転する中、平成18年に同社を引き継いだ圓井良社長は新たな活路を見出し出していた。繊維といえば糸で編むものをイメージするが、同社が取り扱う製品は多種多様だ。ステンレス、モネル、銅等の金属繊維で作る電磁波シールド製品、デミスター、パッキン、ガスケット等の自動車部品をはじめ、カーボン繊維、アラミド繊維、ガラス繊維等も取り扱っている。これらは高性能で高弾性、強度に優れているため、建築土木、医療、スポーツ等幅広い分野で使用されている。

「何でもやってみようと思ったのがきっかけですね。斜陽産業で終わってはいけない、何かやらなくてはと模索していました」と語る圓井社長。京都工芸繊維大学に社会人大学院

生として通い、幅広い知識と情報、人脈を得たのだ。

現在では電子機器やペットフードのメーカー等、異業種のニーズに対応できる機器の開発も行っている。

複合繊維の研究で博士号

同社の編む技術は、現代のニーズに合わせて進化している。圓井社長は大学院で炭素繊維やアラミド繊維等を利用した複合材料の研究に取り組み、博士号を取得。関西医科大学が進める人工血管の研究チームにも参加している。

ハイブリッド円筒編物の製編に関する論文を学会で発表し、研究チームで、血管閉塞を防ぐステント（金属状の網で血管を内側から広げる筒状のチューブ）のキンク（筒が折れ曲がる）現象を防ぎ、曲線に対応できるように構造と編み方を発案した。これは経済産業省の「地域新生コンソーシアム研究開発事業」に採択され、すでに動物実験で十分な成果を出している。

同社はニットマーケットに対応しているため、大量受注は少ないが、全国からインターネットを通じて問い合わせや相談が多いのも特長だ。「特に最先端事業や自動車関連等からの引き合いが増えています。当社は製造だけでなく、次の展開をアドバンスしたり有益な人を引き合わせたることができるのが強みです」。

最近では軽量で耐熱性と高強度を有するCCコンポジット（カーボンコンポジット）を製造する機械も開発している。「大手企業に依頼する

と企業秘密の漏洩を心配されるようです。その点、当社のような中小企業は安心して任せていただいています」と圓井会長。

信頼性と提案力を駆使する同社の今後の活躍が期待される。

主な事業内容

繊維機械類の製造販売、家庭用・工業用ミシン、一般・特殊縫製、繊維機器取扱い、特注機器の開発・改造、筒編物の製造・販売、中古機器取扱い等



圓井康三さん
代表取締役会長



圓井良さん
代表取締役社長

圓井繊維機械株式会社

Company Profile

住所 / 〒535-0031
大阪府大阪市旭区高殿2-1-15
創業 / 昭和45年2月
設立 / 昭和50年2月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 6名（平成21年1月現在）
TEL / 06-6923-2615
FAX / 06-6925-6597



<http://www.marusans.com/>